

山形県家計消費動向調査

調査概要

1. 調査の目的

県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。

※今回第1回調査を行ったが、今後3ヵ月ごとに調査を継続していく予定。

2. 調査の方法

郵送調査専属モニターを利用したアンケート調査

3. 調査の対象者

県内に在住する勤労者（サラリーマン）世帯（世帯人数2名以上）

モニター世帯数：420世帯

4. 調査期間

2006年9月1日～15日

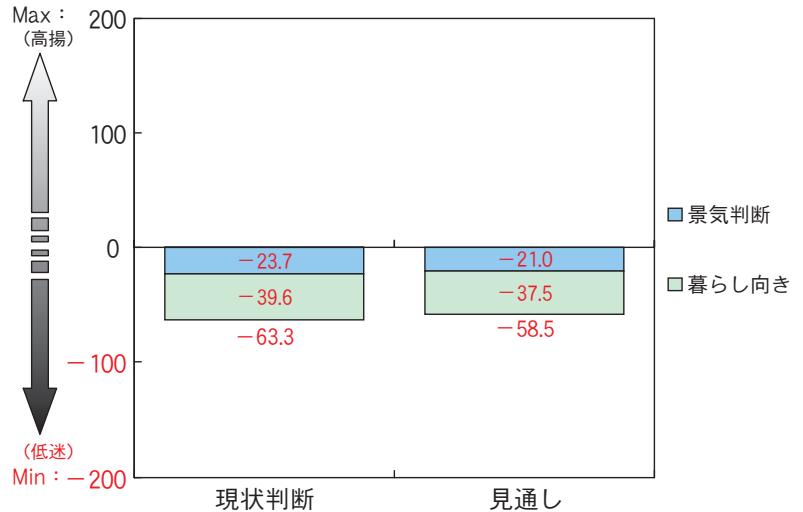
今月の消費指数

消費指数は▲63.3

～消費マインドは低迷気味～

消費指数の内訳は景気判断指数が▲23.7、暮らし向き指数が▲39.6となっており、景気判断指数に比べて暮らし向き指数が15.9ポイントも低く、景気認識との間にズレが生じている。景気は良くとも我が家の暮らしは良くなっていないと見る世帯が多いようである。

なお、今後の見通しについては消費指数が4.8ポイント改善するものの、指数そのものは▲58.5となっていることから、依然として消費マインドは低調に推移すると予想される。



【指数の見方】

消費指数は①景気判断指数と②暮らし向き指数の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

①景気判断指数（指数レンジ100～▲100）：

家計を取り巻く経済環境をどのように認識しているかを表した指数です。「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格（物価）」に関する設問の回答結果から作成されます。

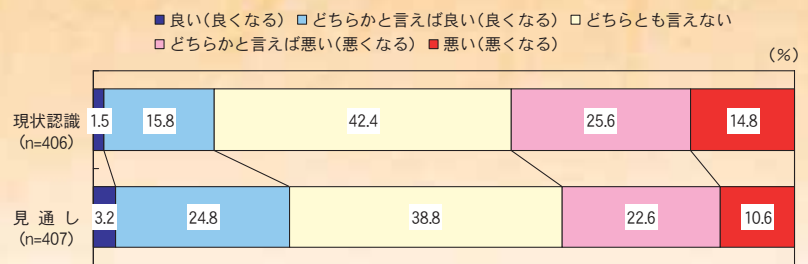
②暮らし向き指数（指数レンジ100～▲100）：

“我が家の暮らし向き”をどのように認識しているかを表した指数です。「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」に関する設問の回答結果から作成されます。

景気判断と見通し

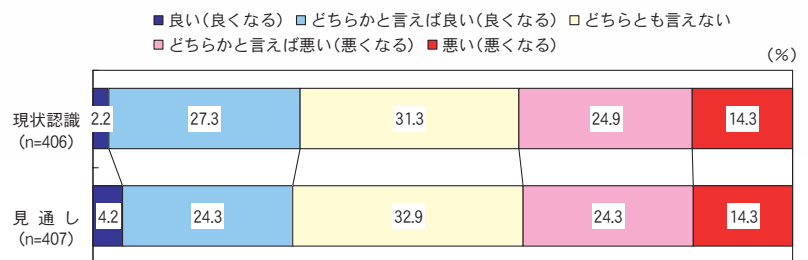
県内景気

現状認識はやや控えめな判断が目立つものの、今後の見通しは明るく、「良くなる」(3.2%)と「どちらかと言えば良くなる」(24.8%)を含め、28.0%の世帯が良くなると予想している。



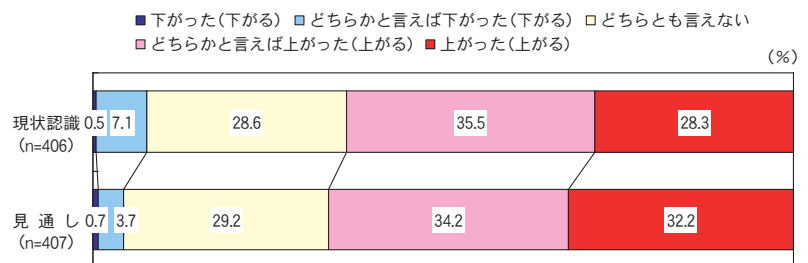
雇用環境

現状認識は「良い」(2.2%)と「どちらかと言えば良い」(27.3%)が29.5%を占めているものの、「悪い」(14.3%)と「どちらかと言えば悪い」(24.9%)がそれを上回っており、雇用環境が改善しているという認識は低い。また、先行きの見通しに対する期待感も現状認識とくらべてやや低くなっている。



日用品価格(物価)

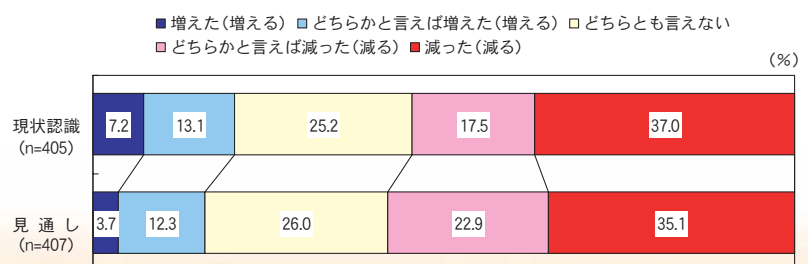
現状認識は「上がった」(28.3%)と「どちらかと言えば上がった」(35.5%)が63.8%を占めており、日用品価格が上がっていると感じている世帯が過半数を占めた。石油価格の高騰の影響などが出ていると思われる。また、今後の見通しについても、物価は上がるという見方が現状認識を上回っている。



暮らし向き判断と見通し

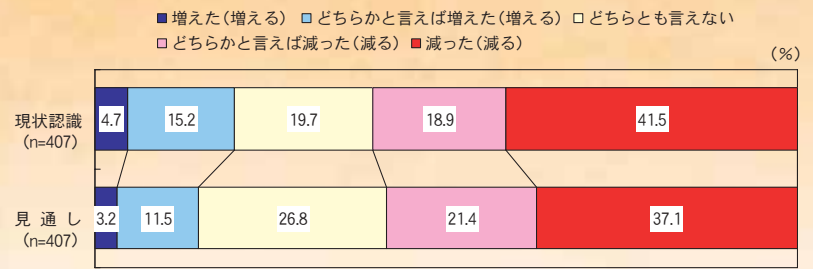
世帯(勤労)収入

現状認識は「減った」(37.0%)と「どちらかと言えば減った」(17.5%)が54.5%を占めており、世帯収入が減ったと感じている世帯が過半数を占めた。また、今後の見通しについても悲観的な予想が趨勢を占めており、世帯収入が「減る」と見る世帯が現状認識を上回っている。



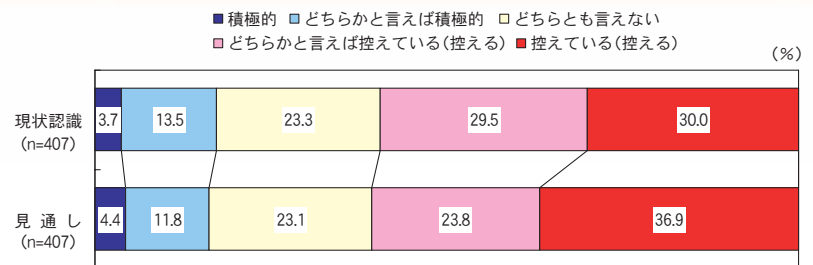
資産価値

現状認識は「減った」(41.5%)と「どちらかと言えば減った」(18.9%)が60.4%を占めており、資産価値は減ったと感じている世帯が過半数を占めた。ただ、今後の見通しについては悲観的な予想が趨勢を占めているものの、「どちらとも言えない」も多くみられるなど、やや判断に窮している様子がうかがえる。



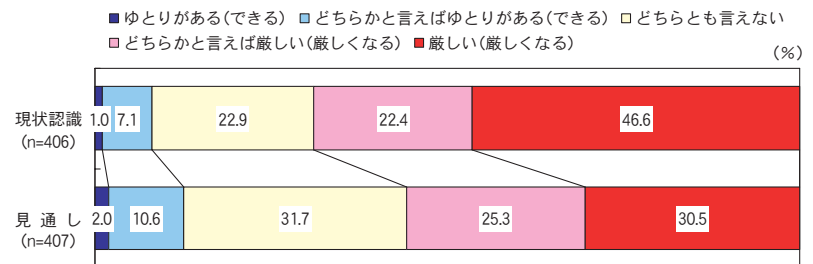
お金の使い方

現状認識は「控えている」(30.0%)と「どちらかと言えば控えている」(29.5%)が59.5%を占めており、お金を使うことを控えているという世帯が過半数を占めた。また、今後の見通しについても「控える」とする世帯が多く、現状認識を上回っている。



暮らし向き

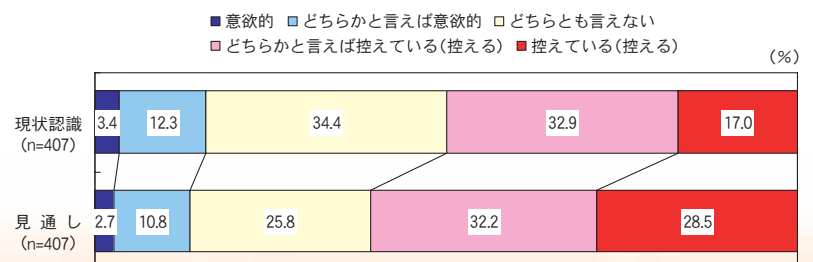
現状認識は「厳しい」(46.6%)と「どちらかと言えば厳しい」(22.4%)が69.0%を占めており、暮らし向きが厳しいと感じている世帯が過半数を占めている。ただ、今後の見通しについては、厳しいと見込んでいる世帯は多いものの、いくぶん明るさを取り戻す見込み。



日常の買い物に関する判断と見通し(一部抜粋)

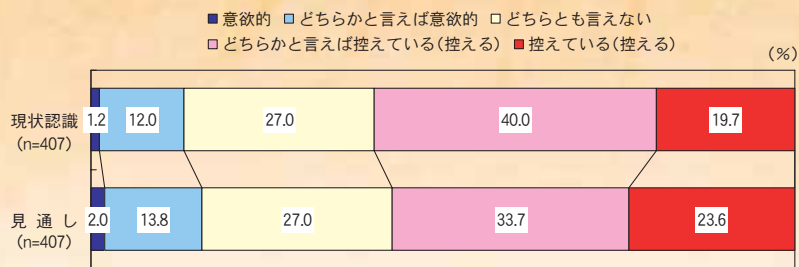
嗜好品(お酒、たばこなど)

現状認識は「控えている」(17.0%)と「どちらかと言えば控えている」(32.9%)が49.9%を占めており、嗜好品の購入を控える動きがみられる。また、今後の見通しについても購入を控える動きが目立つなど、節制に努める世帯が多い。



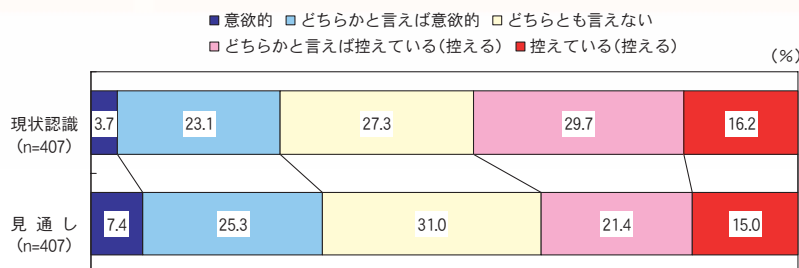
ファッション衣料・靴など

現状認識は「控えている」(19.7%)と「どちらかと言えば控えている」(40.0%)が59.7%を占めており、ファッション衣料・靴などの購入を控えている世帯が過半数を占めた。また、今後の見通しについては、いくぶん意欲的に購入するという世帯も目立つが、依然として購入を控えるという世帯が過半数を占めている。



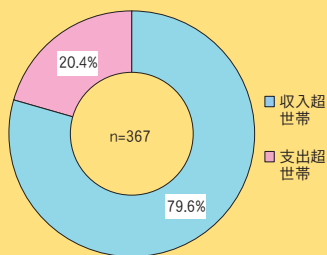
娯楽・レジャー

現状認識は「控えている」(16.2%)と「どちらかと言えば控えている」(29.7%)が45.9%を占めており、娯楽・レジャー関連支出を控えている世帯が多い。ただ、今後の見通しについては、本格的な行楽シーズンを控え、意欲的な支出を見込んでいる世帯が増えている。

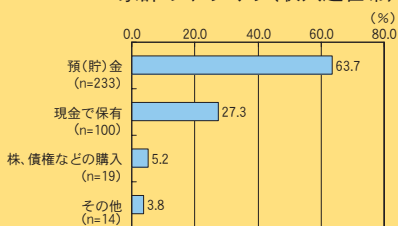


今月の家計簿

収入項目	金額(円)	支出項目	金額(円)
1. 定期収入	266,332	1. 食費	55,472
2. 臨時収入	52,389	2. 住居費	46,395
I. 世帯主の収入	318,721	3. 水道・光熱費	23,065
1. 他の人員の定期収入	118,829	4. 通信・交通費	29,978
2. 他の人員の臨時収入	18,258	5. 被服・装飾費	10,984
II. 他の人員の収入	137,087	6. 各種保険料の支払い	38,440
III. その他収入	20,452	7. 医療・介護費	9,369
		8. 育児・教育費	24,611
		9. 仕送り	12,245
		10. 小遣い	38,821
		11. ローン・月賦の支払い	15,562
		12. その他支出	24,895
計	476,260	計	329,837
平均消費性向 (支出計÷収入計×100)		69.3%	



家計のやりくり(収入超世帯)



家計のやりくり(支出超世帯)

